

北海道・鹿追ジオパーク構想の概要 Hokkaido Shikaoui Geopark plan

舟越 洋二^{1*}

FUNAKOSHI, Youji^{1*}

¹ 鹿追小学校

¹Shikaoui Elementary School

北海道の十勝地方北部に位置する鹿追町は、農業を主要な産業とする人口約 5,700 人の自治体である。鹿追ジオパーク構想では、火山の恵みがベースになった観光と農業、そして町をあげて取り組んでいる小中高一貫教育の取り組みを連携させ、さらに様々な世代が参加できるしくみを整えることで、持続的な地域の発展を目指す。

町の北側は大雪山国立公園の範囲に含まれており、北海道の自然湖として最も標高の高い場所にある然別湖がある。然別湖は、標高約 1000-1200m、比高 500m 程度の小規模な溶岩ドームが十数個集まった然別火山群の噴火活動によって、川が堰き止められて誕生したと考えられている。この堰き止めによりオショロコマが然別湖とその流入河川であるヤンベツ川に陸封され、亜種「ミヤベイワナ」(生息地が北海道の天然記念物)に進化している。ヤンベツ川流域には、ミヤベイワナなどの淡水魚を主食にする国の天然記念物シマフクロウが生息している。このように然別湖とその周辺には、保護された森林とともに、自然状態の生態系が維持されている。

然別火山群の溶岩ドームの噴出年代は、降下軽石を挟む土壌や広域テフラの年代より約 1 - 4 万年前と考えられているが、まだ定かではない。溶岩ドームは崩壊が進み、その周囲やドームの鞍部に安山岩の巨礫が堆積し、岩塊斜面を形成している。岩塊斜面にはハイマツ・イソツツジ群落などの高山的な植生が分布し、また氷期の遺存種であるエゾナキウサギが生息している。森林限界よりもはるかに低い標高帯に、高山的な生態系が分布するのは、夏季に冷風を吹き出す風穴が大規模に分布するためと考えられている。風穴が分布する岩塊斜面の地下には、永久凍土の存在が確認されている。永久凍土の一部には越年氷もあり、氷に閉じ込められた有機物の年代は約 3,700yBP を示し、国内最古の氷である可能性が指摘されている。このように、然別湖周辺には、火山活動によって生じた堰止や火山体の崩壊による岩塊斜面の雪氷現象によって独特な生態系が維持されている。

町の南側には、十勝三股カルデラや然別火山群の火砕流堆積物や、遠く支笏カルデラから飛散した火山灰が堆積した台地が広がっている。そこでは、そば・じゃがいも・ビートの栽培や酪農が営まれ、そばや乳製品の名産地として知られている。このような一次産業のほか、鹿追町は日本のエコツーリズムの先進地としても有名である。然別湖畔温泉には民営の「然別湖ネイチャーセンター」があり、観光客や修学旅行団体に対してカヌーやトレッキング、釣りなどのツアーや、冬に凍結した湖面で行われるイベント「然別湖コタン」の運営に関わっている。なお然別湖ネイチャーセンターのツアーでは、火山や風穴、永久凍土と生態系に関する解説をすでに取り入れている。

このように、鹿追町の一次産業と観光業は、然別火山群を始めとする火山活動でつくられた地形や生態系の上に成り立っている。さらに町内全ての学校は、このような自然や町の産業を系統的に学ぶ「地球学」のカリキュラムを備えた小中高一貫教育を推進している。

「地球学」は、鹿追高校 3 年生の時にカナダの人たちと環境問題を英語でディスカッションできる子どもの育成を目指し、小学校からの英語と国際理解教育の必修教科「カナダ学」や、ふるさと教育の「しかおい学」、鹿追町の「新エネルギービジョン」を関連させた新設教科として開設。然別湖周辺の自然やバイオガスプラントなどを教材に、小・中学校、高等学校 12 年間の教育プログラムを開発し、環境リテラシーを身に付けることをねらいとした体験活動を取り入れた教育活動を推進している。

将来は、これまでの成果である「地球学」に鹿追ジオパーク構想の素材を活用した環境教育や防災教育、ユネスコスクールに加入して行う持続可能な開発のための教育 (ESD) を取り入れ、新たな必修教科「新地球学」として広く全国に発信していく。

ジオパークになることで、学校教育と町内の産業 (一次産業、観光業) の連携をさらに推進できると確信している。

現在、ジオパークの認定に向け課題の克服を進めている。そのひとつは、ビジターへの案内拠点となる博物館などの施設である。拠点施設については、町の既存施設を活かす方向で検討を始めている。また、市街地周辺や耕作地のジオサイト・ストーリーの発掘やガイド養成の検討も進められているが、花フェスタのボランティアガイドなどの成果を生かすことで十分可能であると考えている。早急に課題を整理・解決し、町民や関係者の結びつきをより強化して継続的なジオパーク運営の体制を整え、来年度の申請を目指したい。